

受附
 第 号
 16.11.30
 日 露 村 夜 場

鳥取縣公報

縣 令

昭和十六年十一月二十八日
 第千二百八十八號

金 曜 日

本書ノ大キサハ國定規格A5判

鳥取縣令第六十六號

穀物検査規則左ノ通定ム

昭和十六年十一月二十八日

鳥取縣知事 入 田 三 郎

穀物検査規則

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ穀物ト稱スルハ、玄米、精米、粳、大麥、小麥、稗麥（大麥、小麥又ハ稗麥ヲ加工シタルモノハ之ヲ除ク）及榮種ヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ受渡ト稱スルハ、賣買、交換、貸借、辨濟、贈與、擔保、寄託又ハ小作料納付等ノ爲本縣内ニ於テ授受スルヲ謂ヒ移出ト稱スルハ本縣外ニ搬出スルヲ謂フ

第三條 本縣内ニ於テ生産セラレタル穀物ハ本令ニ依リ検査ヲ受

- ケタルモノニ非ザレバ之ヲ受渡又ハ移出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 第八條ニ定ムル正味量ニ滿タザル端量ノモノ
 - 二 學術研究又ハ試験ノ用ニ供セラルルモノ
 - 三 博覽會、共進會又ハ品評會ニ出品セラルルモノ
 - 四 自家消費ノ爲本縣内ニ於テ委託ニ依リ加工セラルルモノ
 - 五 粳ニシテ本縣内ニ於テ委託ニ依リ脱稈調製セラルルモノ
 - 六 精米ニシテ移出セラレザルモノ
 - 七 徵發又ハ強制執行ノ目的物トナリタルモノ及國有ニ屬スル

モノ

八 特別ノ事由ニ依リ検査ヲ免除セラレタルモノ

前項第二號若ハ第三號ノ穀物ヲ移出シ又ハ同第八號ノ穀物ヲ受渡若ハ移出セントスル者ハ其ノ包裝ニ別記様式第一號ニ依ル荷札ヲ附シ所轄農産物検査所出張所又ハ同派出所ニ届出テ其ノ荷札ニ別記様式第二號ニ依ル検査免除印ノ押捺ヲ受クベシ

第四條 本縣内ニ於テ生産セラレタル穀物ニシテ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノニ付其ノ検査ヲ希望スル者アルトキハ本令ニ依リ之ガ検査ヲ行フコトアルベシ

第五條 本縣外ヨリ移入セラレタル穀物ト雖モ本縣外ニ於テ生産セラレタルコトヲ確認シ難キモノハ之ヲ本縣内ニ於テ生産セラレタルモノト看做ス

第六條 特別ノ事由アル穀物ニ付テハ農産物検査所長(以下所長ト稱ス)ハ検査ノ免除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ検査ノ免除ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由、穀物ノ種類、數量、生産年度、用途及仕向先ヲ具シタル書面ヲ以テ所長ニ申請スベシ

第七條 穀物ノ検査等級ハ左ノ通トス
玄米 一等、二等、三等及等外
精米及粃 合格及格外

大麥、稗麥及菜種 一等、二等、三等及等外
小麥 一等、二等、三等、四等及等外

風水害其ノ他ノ災害ニ因リ穀物ノ品位ヲ著シク損ジタル場合知事必要アリト認ムルトキハ前項ノ検査等級ニ玄米、大麥、稗麥及菜種ニ在リテハ三等ノ下ニ四等ヲ小麥ニ在リテハ四等ノ下ニ五等ヲ増設スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ豫メ之ヲ告示ス前各項ノ検査等級ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 検査ヲ受クル穀物ノ一包裝ノ正味量ハ左ノ各號ニ依ルベシ
一 玄米 十六貫又ハ四斗
但シ容量ニ依ル前年度ノ玄米ハ六月一日ヨリ八月三十一日迄ハ四斗三合ニ滿タザルトキハ定量ヲ缺クモノト看做ス

二 精米 十六貫
三 粃及大麥 十二貫
四 小麥、稗麥及菜種 十六貫

第九條 検査ヲ受クル穀物ノ包裝ハ左ノ各號ニ依リ玄米、精米、小麥及稗麥ニ在リテハ二重俵裝、三本繩複式編俵裝又ハ叭収種及大麥ニ在リテハ一重俵裝、三本繩複式編俵裝又ハ叭収種ニ在リテハ叭トスベシ但シ移出セラレザル玄米、精米、粃、大麥、小麥及稗麥ノ包裝ニシテ一重俵裝、二重俵裝又ハ三本繩複式編俵

裝ノモノニハ縦繩ヲ省略スルコトヲ得

一 二重俵裝

(一) 内 俵

(イ) 菰ハ能ク乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ小繩ヲ以テ四箇所ヲ編ミ其ノ各封間六寸兩鬚五寸五分房數約五十五トシ長サ約三尺八寸重量六百匁乃至七百匁ト爲スコト

(ロ) 棧俵ハ能ク乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ直徑約一尺重量約百匁ト爲スコト

(ハ) 繩ハ打柔ゲタル藁ヲ編ヒ藤繩及横繩ハ周リ約一寸一分ト爲スコト

(ニ) 小口膝ハ小口ノ菰端ヲ内方ニ折曲ゲタル上ニ棧俵ヲ當テ藤繩ヲ以テ目通ヲ入箇所トシ順次千鳥掛ト爲シ中央部ニ於テ結止ムルコト

(ホ) 横繩ハ三箇所ヲ各二廻リ緊括スルコト

(二) 外 俵

(イ) 菰ハ能ク乾燥セル選藁ヲ用ヒ小繩ヲ以テ四箇所ヲ編ミ其ノ各封間七寸兩鬚五寸五分房數八十以上トシ長サ約四尺三寸重量三百匁乃至四百匁ト爲スコト

(ロ) 繩ハ打柔ゲタル藁ヲ編ヒ藤繩、横繩及縦繩ハ周リ約一寸一分ト爲スコト

(ハ) 小口膝ハ小口ノ菰端ヲ内方ニ折曲ゲ藤繩ヲ以テ目通ヲ九箇所トシ順次右廻リニ一ツ飛ビニ引掛ケ三廻目ヨリ悉ク引掛ケ結止ムルコト

(ニ) 横繩ハ五箇所ヲ各二廻リ緊括シテ男結ト爲スコト

(ホ) 縦繩ハ一筋ニテ四方掛ト爲シ兩端ノ横繩及縦繩ノ交叉點ニハ蛙股掛其ノ他ノ各横繩ニハ戻掛トシ小口ニ於テ男結ト爲スコト

二 三本繩複式編俵裝

(イ) 菰ハ能ク乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ一箇所ニ小繩三本ヲ用ヒテ四箇所ヲ編ミ其ノ封間中央七寸左右各六寸五分兩鬚五寸五分編手七十以上トシ棧俵縮繩ヲ四箇所ニ編込ミ長サ約四尺重量約九百匁ト爲スコト

(ロ) 棧俵ハ能ク乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ直徑約一尺一寸重量約百匁ト爲スコト

(ハ) 繩ハ打柔ゲタル藁ヲ編ヒ藤繩、横繩、縦繩及棧俵縮繩ハ周リ約一寸一分ト爲スコト

(ニ) 小口膝ハ小口ノ菰端ヲ内方ニ折曲ゲタル上ニ棧俵ヲ當テ編込ミタル棧俵縮繩ニテ十文字ニ括リ藤繩ヲ以テ五房宛ヲ掬ヒ目通ヲ九箇所トシ順次右ニ二廻リ引掛ケタル後向ヒ掛

トシ中央部ニ於テ引締メ結止ムルコト
(ホ) 横繩及縱繩ノ掛方ハ二重俵裝ノ外俵ノ規定ニ依ルコト
三 一重俵裝

(イ) 蕪、棧俵及小口籾ハ二重俵裝ノ内俵ノ規定ニ依ルコト
(ロ) 繩並ニ横繩及縱繩ノ掛方ハ二重俵裝ノ外俵ノ規定ニ依ルコト

四 吠
(イ) 筵ハ能ク乾燥セル打藁ヲ用ヒ織目二十一長サ約五尺八寸幅約二尺九寸重量六百匁乃至七百匁トシ強靱ナル細繩ヲ以テ一端ヲ二十八針以上縫上グルコト

(ロ) 荷造ハ吠口ヲ卷キ兩耳ヲ中央部ニ折込ミ細繩ヲ以テ括リ縱繩ハ二箇所ヲ各二廻リ緊括シ横繩ハ二筋ヲ以テ二箇所ヲ緊括シテ縱繩ニハ蛙股掛トシ結止ムルコト

第十條 特別ノ事由ニ依リ前二條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ所長ノ許可ヲ受ケ特別ノ正味量又ハ包裝ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由、穀物ノ種類、數量、一包裝ノ正味量、包裝方法、用途及仕向先ヲ具シタル書面ヲ以テ所長ニ申請スベシ

第十一條 検査ヲ受ケル穀物ニハ其ノ包裝ニ別記様式第三號ニ依ル票箋ヲ結附クベシ

第十二條 検査ヲ受ケントスル者ハ別ニ定ムル規程ニ依リ検査手數料ヲ納付スベシ

小作料トシテ受渡スル穀物ノ検査手數料ハ其ノ穀物ヲ收受スル者ノ負擔トス

第十三條 本令ニ依ル検査施行ノ爲必要ナル穀物ノ積替、運搬、計畫、解裝及改裝ノ勞力及費用ハ検査申請者ノ負擔トス

第十四條 本令ノ適用ニ因リ生ジタル損害ニ付テハ縣ハ賠償ノ責ニ任ゼズ

第二章 検査

第十五條 検査ハ穀物ノ品質、粒形、乾燥、調製、正味量及包裝ニ付之ヲ行ヒ其ノ品位ニ依リ検査等級ヲ決定ス

第十六條 検査ハ農産物検査吏員(以下検査吏員ト稱ス)之ヲ行フ但シ検査吏員ト雖モ自己ノ利害ニ直接關係アル穀物ノ検査ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

検査吏員其ノ職務ヲ行フトキハ別記様式第四號ニ依ル證票ヲ携帯スベシ

第十七條 検査ハ現品所在地ニ於テ之ヲ行フ但シ所長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ關係者ノ希望ヲ斟酌シ検査場所ヲ指定スルコトアルベシ

第十八條 検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル検査申請

書ヲ所轄農産物検査所出張所又ハ同派出所ニ提出スベシ

一 住所氏名

二 生産年度

三 種類及數量

四 所在地

五 仕向先

六 検査手數料

七 受檢希望ノ月日

第十九條 検査申請者又ハ其ノ代理人ハ検査ニ立會シ検査吏員ノ指示ニ從フベシ

前項ノ指示ニ從ハザルトキハ其ノ検査ヲ中止スルコトアルベシ
第二十條 検査吏員検査ヲ行フニ當リ第八條、第九條、第十條又ハ第十一條ノ規定ニ適合セザルモノアリタルトキハ其ノ穀物ノ検査ハ之ヲ中止ス

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ中止シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シ十日以内ニ不備ノ點ヲ正シテ検査ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ穀物ニ付既ニ爲シタル検査申請ハ効力ヲ失フモノトス

第二十一條 検査ヲ行ヒタル穀物ニハ其ノ検査等級ニ應ジ包裝ノ縦繩ノ結止(縦繩ヲ省略セルモノニ在リテハ小口籾繩ノ結止)ニ別記様式第五號ニ依ル検査封緘紙ヲ以テ卷封シ其ノ封目ニ別

記様式第六號ニ依ル檢印ヲ押捺シ包装面ニ別記様式第七號ニ依ル検査等級證印ヲ票箋ニ別記様式第八號ニ依ル検査證印ヲ押捺ス但シ移出セラレザル穀物ニハ検査等級證印ノ押捺ヲ省略スルコトアルベシ

検査ヲ行ヒタル玄米ニシテ重量ニ依ルモノニハ其ノ票箋ニ別記様式第九號ニ依ル重量記號ヲ押捺ス

検査ヲ行ヒタル糯米ニハ別記様式第十號ニ依ル糯米記號ヲ陸稻玄米式第十一號ニ依ル陸米記號ヲ各其ノ包裝面ニ押捺ス

第二十四條、第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ行ヒタル穀物ニハ其ノ票箋ノ裏面ニ別記様式第八號ニ依ル検査證印ヲ押捺ス

第二十二條 検査ヲ受ケタル玄米又ハ大麥ニシテ酒造組合聯合會又ハ麥酒醸造業者ト契約栽培ヲ爲シ醸造用ニ供セラルルモノニハ必要ニ依リ其ノ包裝面ニ別記様式第十二號ニ依ル酒米證印ヲ押捺ス

前項ノ規定ニ依リ酒米證印ヲ押捺スル玄米ニシテ大粒ト認メラルルモノニハ必要ニ依リ其ノ票箋ニ別記様式第十三號ニ依ル大粒證印ヲ押捺ス

第一項ノ規定ニ依ル酒米證印ノ押捺ヲ受ケントスル者ハ其ノ種類、品種別數量、生産年度、所在地及仕向先ヲ具シタル酒米證

印押捺申請書ニ用途及契約栽培ノ證明書類ヲ添附シ所轄農産物検査所出張所又ハ同派出所ニ之ヲ提出スベシ

第二十三條 穀物ノ票箋又ハ包裝面ニ押捺シタル検査證印、検査等級證印、重量記號、糯米記號、陸米記號、酒米證印又ハ大粒證印ヲ抹消スルトキハ別記様式第十四號ニ依ル消印ヲ用フ

第二十四條 検査申請者ニシテ検査等級ノ決定ニ對シ異議アル者ハ其ノ検査ノ終了シタル日ヨリ起算十日以内ニ其ノ異議ノ事由、穀物ノ種類、検査等級別數量、所在地、前検査年月日及受檢希望日時ヲ記載シタル書面ヲ以テ所長ニ再検査ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三章 取 締

第二十五條 検査ノ穀物ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ検査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ受渡又ハ移出スルコトヲ得ズ

一 包裝ヲ毀損シ又ハ改裝シタルモノ

二 検査證印、検査等級證印、重量記號、糯米記號又ハ陸米記號ノ不明瞭トナリタルモノ

三 検査封緘紙若ハ票箋ヲ毀損シ又ハ亡失シタルモノ

四 正味量ノ減少シタルモノ

五 検査後腐敗若ハ變質シ又ハ著シク蟲害若ハ鼠害ヲ受ケタルモノ

六 検査ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シ移出セラルルモノ但シ十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄ニ検査ヲ受ケ其ノ期間内ニ移出セラルルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 検査吏員必要アリト認ムルトキハ検査濟ノ穀物ニ付再検査ヲ行フコトアルベシ

前項ノ規定ニ依ル検査ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十七條 第二十一條第一項但書ノ規定ニ依リ検査等級證印ノ押捺ヲ省略セラレタル穀物ヲ移出セントスル者ハ其ノ種類、検査等級別數量、生産年度、所在地及仕向先ヲ具シタル書面ヲ以テ所轄農産物検査所出張所又ハ同派出所ニ届出デ其ノ検査等級證印ノ押捺ヲ受クベシ此ノ場合第九條本文但書ノ規定ニ依リ縦繩ヲ省略シテ検査ヲ受ケタル穀物ニ在リテハ其ノ縦繩ヲ施スコトヲ要ス

第二十八條 第二十二條ノ規定ニ依リ包裝面ニ酒米證印ヲ押捺シ

アル玄米又ハ大麥ヲ特別ノ事由ニ依リ用途ヲ變更シテ受渡又ハ移出セントスル者ハ其ノ事由、種類、數量、所在地及仕向先ヲ具シタル書面ヲ以テ所轄農産物検査所出張所又ハ同派出所ニ届出テ酒米證印ノ抹消ヲ受クベシ

第二十九條 検査ヲ受クル穀物又ハ検査濟ノ穀物ノ包裝ニ商標、

荷印其ノ他ノ表示ヲ爲サントスル者ハ其ノ事由表示方法及實形

圖ヲ記載シタル書面ヲ以テ所長ニ届出テ許可ヲ受クベシ其ノ記載事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

所長必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第三十條 本令ニ定ムル検査等級證印、糯米記號、陸米記號又ハ酒米證印ヲ押捺シタル俵菰及叭ハ其ノ證印又ハ記號ヲ抹消スルニ非ザレバ穀物ノ包裝ニ之ヲ再用スルコトヲ得ズ

第三十一條 検査濟ノ穀物ヲ解裝シタルトキ直ニ其ノ検査封緘紙及票箋ヲ破棄スベシ

第三十二條 検査濟ノ穀物ヲ降雨雪中ニ運搬シ又ハ濕氣多キ場所ニ置クトキハ防濕ニ必要ナル設備ヲ爲スベシ

第三十三條 運送業者又ハ運送取扱業者ハ第三條ノ規定ニ違反シ受渡又ハ移出セントスル穀物ヲ運送シ又ハ運送取扱ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條 検査吏員又ハ警察官吏ハ本令ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ穀物ノ運搬停止若ハ保管又ハ關係資料ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四章 罰 則

第三十五條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第三條、第二十五條、第二十六條第二項、第二十七條、第二十八條、第二十九條第一項、第三十條乃至第三十三條又ハ第三十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 検査ヲ免ルル爲又ハ検査ヲ受クルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

三 濫リニ検査濟ノ穀物ノ検査等級證印、糯米記號、陸米記號又ハ酒米證印ヲ隠蔽シ又ハ抹消シタル者

四 濫リニ検査濟ノ穀物ノ検査封緘紙又ハ票箋ヲ隠蔽シ若ハ毀損シ又ハ不正ニ使用シタル者

五 検査濟ノ穀物ニ濕氣ヲ施シ又ハ生産年度、品種若ハ品位ノ異ル穀物其ノ他ノ物料ヲ混入シ又ハ減量シタル者

六 不正ノ手段ヲ以テ酒米證印ノ押捺ヲ受ケタル者

前項ノ罰則ハ違反行爲ノ未遂者ニ之ヲ適用ス

第三十六條 本令ニ依ル義務者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ノ規定ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十七條 本令ノ規定ニ違反シタル者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行ス

ル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十五年以前ニ生産セラレタル玄米及精米ノ検査並ニ昭和十六年以前ニ生産セラレタル大麥小麥、稗麥及菜種ノ検査ニ付テハ仍從前ノ穀物検査規則ヲ適用シ昭和十五年以前ニ生産セラレタル粳ノ検査ニ付テハ仍從前ノ粳検査規則ヲ適用ス

昭和八年六月鳥取縣令第十八號穀物検査規則及昭和十二年三月鳥

別 記

樣式第一號 荷 札

縣	市郡	村町
届出人		
縣	市郡	村町
受取人		
昭和	年産何々	斗(又ハ貫)
正味量		
昭和	年	月 日

取縣令第六號粳検査規則ハ之ヲ廢止ス
從前ノ穀物検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタル昭和十六年産ノ玄米及精米ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケタルモノト看做ス但シ移出検査ヲ受ケザルモノヲ移出セントスル場合ハ本令ニ依リ之ガ検査ヲ受ケルコトヲ要ス

從前ノ穀物検査規則ニ依リ許可ヲ受ケタル商標、記號其ノ他ノ表示ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

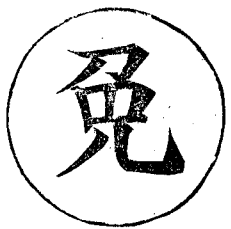
本令ニ定ムル票箋、検査封緘紙、検査等級證印、検査證印、重量記號、糯米記號、陸米記號、酒米證印、大粒證印及検査免除印ハ當分ノ内從前ノ穀物検査規則ニ定ムルモノヲ各代用スルコトヲ得

備考 一 用紙ハ強靱ナルモノヲ用フルコト

二 記載事項中「何々」ハ穀物ノ種類ニ依リ「粳玄米」、「粳精米」、「糯玄米」、「糯精米」、「粳粳」、「糯粳」、「大麥」、「小麥」、「稗麥」又ハ「菜種」ト記載スルコト

樣式第二號

檢 查 免 除 印



徑 一 寸
肉 色 紫

樣式第三號

票 箋

縣	市郡	村町
受檢者		
昭和	年産何々	斗(又ハ貫)
正味量		
皆掛重量		貫 匁

長 三寸五分
幅 一寸五分

樣式第四號

證 票

備考 一 用紙ハ強靱ナルモノヲ用フルコト

二 記載事項中「何々」ハ穀物ノ種類ニ依リ「粳玄米」、「粳精米」、「糯玄米」、「糯精米」、「粳粃」、「糯粃」、「大麥」、「小麥」、「稗麥」又ハ「菜種」ト記載スルコト

三 陸稻玄米ニ用フルモノハ記載事項中「粳玄米」、「糯玄米」、「粳粃」及「糯粃」ノ下ニ(陸稻)ヲ記載スルコト

表 面

第 號

農 產 物 檢 查 吏 員 證

長 三 寸
幅 二 寸

職 氏 名

裏 面

年 月 日 交 付

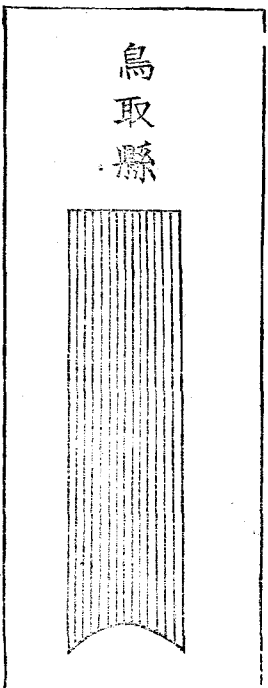
鳥 取 縣 印

樣式第五號

檢 查 封 緘 紙

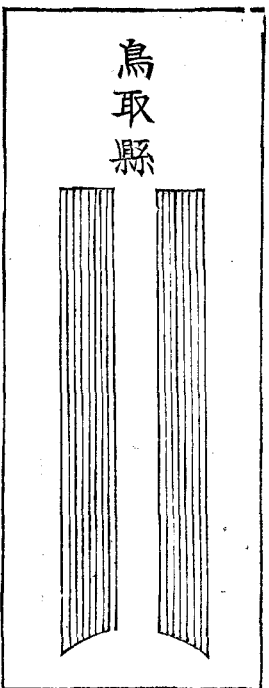
長五寸 幅一寸 刷色赤 長三寸

一 等 級 合 格



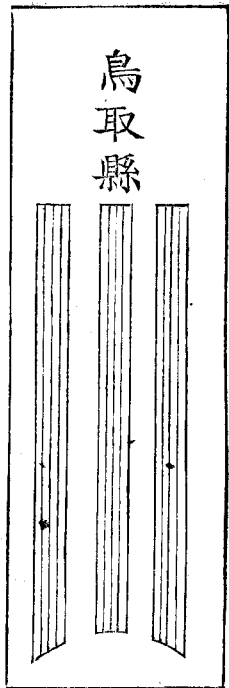
幅五分ノ縦線一本

二 等



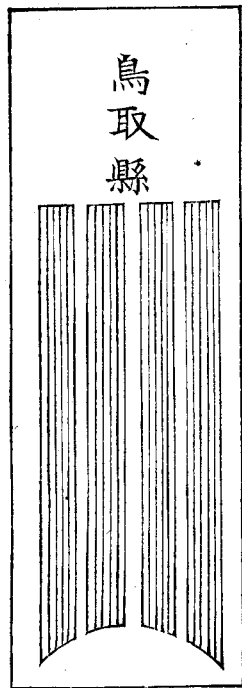
幅二分五厘ノ縦線二本

三等



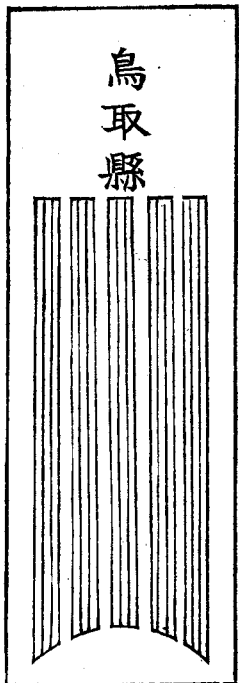
幅一分三厘ノ縦線三本

四等



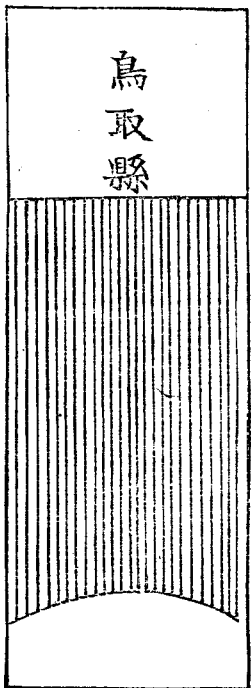
幅一分ノ縦線四本

五等



幅六厘ノ縦線五本

等外及格外



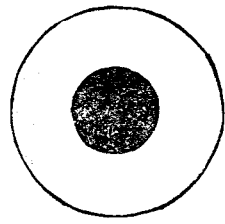
全部刷

樣式第六號 檢 印



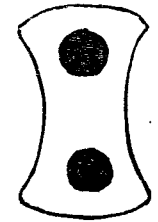
肉 橫 縱
色 三 六
紫 分 分

樣式第七號 檢 查 等 級 證 印 肉 色 赤



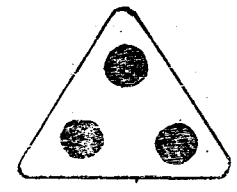
一等及合格

徑 三 寸



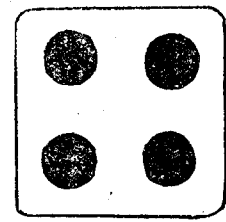
二等

縱 三 寸 一 分
橫 一 寸 八 分



三等

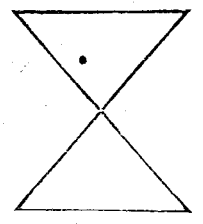
各 邊 三 寸 五 分



四等

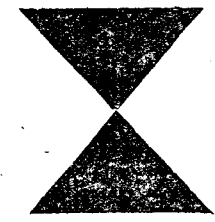
各 邊 三 寸

樣式第八號 檢 查 證 印



五等

縱 二 寸 五 分
橫 三 寸 一 分



等 外 及 格 外

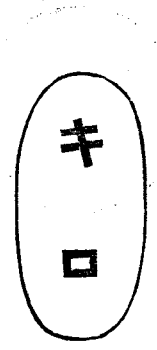
縱 三 寸 一 分
橫 二 寸 五 分

樣式第九號

重 量 記 號

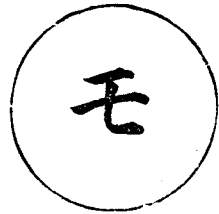


肉 徑
色 一 寸
紫 寸



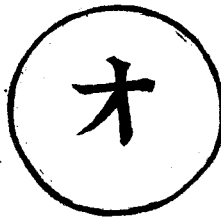
肉 橫 縱
色 四 六
紫 分 分

樣式第十號 糯米記號



肉 徑
色 三
赤 寸

樣式第十一號 陸米記號



肉 徑
色 三
赤 寸

樣式第十二號 酒米證印



肉 橫 縱
色 二 三
赤 寸 寸

樣式第十三號 大粒證印



肉 橫 縱
色 四 六
紫 分 分

樣式第十四號 消箋用印



肉 徑
色 三
紫 分

包裝用



肉 幅 長
色 五 三
赤 分 寸六分

◇鳥取縣令第六十七號

穀物検査手數料規則左記ノ通定ム

昭和十六年十一月二十八日

穀物検査手數料規則

第一條 穀物検査規則(以下規則ト稱ス)第十二條ノ検査手數料

鳥取縣知事

左ノ如シ

八

田

三

郎

支

米

一包裝ニ付

金 八 錢

精米	一包裝ニ付	金八錢
粗米	一包裝ニ付	金三錢
大麥	一包裝ニ付	金四錢
小麥	一包裝ニ付	金五錢
稗麥	一包裝ニ付	金五錢
菜種	一包裝ニ付	金五錢

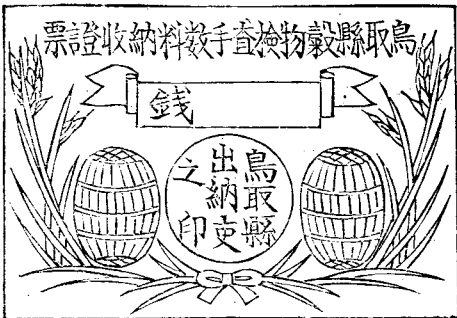
第二條 規則第二十條第二項ニ該當スルモノノ既納手数料ハ之ヲ還付セズ

第三條 規則第二十四條ニ依ル再検査ノ検査手数料ハ検査等級ノ決定方前検査ト異リタルトキハ之ガ納付ヲ免除ス

第四條 規則第二十五條第二號若ハ第三號ニ該當スルモノノ再検査及規則第二十六條ノ再検査ニ付テハ検査手数料ヲ徴收セズ

第五條 検査手数料ハ規則第十八條ノ検査申請書ニ鳥取縣穀物検査手数料納收證書(以下證書ト稱ス)ヲ貼付シテ之ヲ納付スベシ

第六條 證書ハ左ノ通トシ縣出納吏ノ印章ヲ押捺シテ之ヲ發行ス
 證書 縦 七分 横 一寸
 縣出納吏ノ印章ハ肉色朱



第七條 證書ハ縣ニ於テ指定スル證書賣捌人ヲシテ賣捌セシム
 證書賣捌人ニ對シテハ賣下金額ノ百分ノ四ヲ取扱費トシテ交付ス

拾圓券	拾圓券	伍圓券	伍圓券	參圓券	參圓券	貳圓券	貳圓券
刷色	蔦色	綠色	紫色	青色	黃色	藍色	襴色

訓令

鳥取縣訓令甲第二十七號

穀物検査規則施行手續左ノ通定ム

昭和十六年十一月二十八日

鳥取縣知事

八 田 三 郎

農 産 物 檢 査 所 長

穀物検査規則施行細則

第一條 穀物検査規則(以下規則ト稱ス)ニ定ムル検査ハ本則ニ依リ之ヲ行フベシ

第二條 農産物検査吏員(以下検査吏員ト稱ス)規則第三條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ検査免除印ヲ押捺シタルトキハ穀物ノ種類、數量、届出人及受取人ヲ承認簿ニ記載スベシ

第八條 證書ノ賣捌人證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ代金ヲ前納スベシ

第九條 損傷又ハ汚染シタル證書ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ前項ノ證書ハ引換ヲ請求スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年六月鳥取縣令第十九號穀物検査手数料規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 昭和八年六月鳥取縣令第十九號穀物検査手数料規則ニ依リ發行セラル證書ハ本令ニ依ル證書ト同一ノ効力ヲ有ス
 本令施行前ニ於テ指定ヲ受ケタル證書賣捌人ハ本令ニ依リ指定シタルモノト看做ス

第三條 検査ハ日割ヲ定メ検査申請ノ順序ニ依リ之ヲ行フベシ但シ検査吏員必要アリト認メタルトキハ適宜變更スルコトヲ得

第四條 検査ハ日出前若ハ日没後又ハ光線ノ不充分ナル場所ニ於テ行フコトヲ得ズ

第五條 検査ハ検査申請書ノ記載事項ト現品トヲ照合シ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フベシ
 一 票箋記載事項
 二 包裝

三 皆掛重量
四 正味量
五 品位

第六條 包裝ノ検査ハ規則第九條ノ各事項並ニ緊括ノ程度ニ付之ヲ行フベシ

第七條 皆掛重量ノ検査ハ受檢一口毎ニ其ノ箇數ノ三分ノ一ニ付其ノ正否ヲ檢シ票箋記載重量ト概ネ合致スルトキハ他ノモノニ付之ヲ省略スルコトヲ得但シ票箋記載重量ト相違スルトキハ検査申請者ヲシテ更ニ計量セシムベシ

第八條 正味量ノ検査ハ受檢一口ノ最低正味量ト認ムルモノヨリ受檢箇數ニ應ジ適宜一箇以上ヲ抽出シテ解裝シ之ヲ檢スベシ容量ニ依ルモノノ計量方法ハ秤ヲ水平ニ置キ秤口ヨリ約八寸ノ高サヨリ徐々ニ落下セシメ約一割ヲ餘分ニ盛り靜カニ斗概ヲ向押ト爲スベシ

検査ノ結果正味量ノ定量ニ滿タザルトキハ検査シタルモノニハ其ノ不足量ヲ其ノ他ノモノニハ最多不足量ヲ補填セシムベシ

第九條 品位ノ検査ハ穀刺ヲ用ヒ各包裝ヨリ穀物ヲ抽出シ品質、粒形、乾燥及調製ノ程度ヲ検査等級ノ標準ニ準ジ鑑別スベシ但シ必要ト認メタルトキハ解裝セシメ検査ヲ爲スコトヲ得

第十條 検査吏員規則第十六條第一項但書ニ該當スル穀物ノ検査申請書ヲ受理シタルトキハ他ノ検査吏員ニ其ノ検査ヲ求ムベシ

他ノ検査吏員前項ノ検査ヲ行ヒタルトキハ検査申請書ニ成績ヲ記入シ所管検査吏員ニ送附スベシ

第十一條 規則第二十四條ノ規定ニ依ル再検査ノ申請書ヲ受理シタルトキハ農産物検査所長(以下所長ト稱ス)ノ指揮ヲ受クベシ

第十二條 規則第二十五條第二號又ハ第三號ニ該當スル穀物ニシテ内容異狀ナキコトヲ確認シタル場合ハ規則第二十一條ニ依リ處理スベシ

第十三條 規則第二十八條ノ規定ニ依リ酒米證印ヲ抹消シタルトキハ其ノ顛末ヲ所長ニ報告スベシ

第十四條 検査吏員規則違反ノ事實ヲ發見シタルトキハ直チニ規則第三十四條ノ處理ヲ爲シ證據ヲ蒐集シ意見ヲ具シ所長ノ指揮ヲ受クベシ

第十五條 検査ヲ終了シタルトキハ當該帳簿ニ登錄シ検査申請書ヲ整理シ毎月五日迄ニ其ノ前月分ヲ一纏メト爲シ検査報告ト共ニ所長ニ提出スベシ

第十六條 所長ニ提出スベキ書類及報告ハ農産物検査所出張所主任及同支所長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年六月鳥取縣訓令甲第八號穀物検査規則施行手續ハ之ヲ廢止ス

告 示

◇鳥取縣告示第九百二十一號

米穀現在高調査員左ノ通異動アリタリ

昭和十六年十一月二十八日

囑託者	鳥取縣知事	八	田	三	郎
囑託者	調查擔當區域				
朝倉輝光	東伯郡榮村				囑託解囑年月日
川上守一	西伯郡渡村				昭和十六年十一月十五日
	向田善正				同

◇鳥取縣告示第九百二十二號

青年學校令ニ依リ左ノ組合立青年學校ヲ昭和十六年三月三十一日附設置ノ件認可セリ

昭和十六年十一月二十八日

一名 稱	鳥取縣西伯郡	法勝寺村外四村	鳥取縣知事	八	田	三	郎
二 位 置	鳥取縣西伯郡	法勝寺村外四村					
三 設置者	鳥取縣法勝寺村	外四村學校組合					

◇鳥取縣告示第九百二十三號

回收物件及施設指定規則第三條ニ該當スル施設ニシテ同規則第二條ノ物件ヲ所有又ハ占有スル者ハ左記期日迄ニ金屬回收鳥取事務所

昭和十六年十一月二十八日

鳥取縣知事 八 田 三 郎
申 込 期 日 昭和十六年十二月七日

彙

報

十二月一日は「一億前進の誓ひ」

正しき反省から力強く前進へ

(振興課)

興亞奉公日

十二月一日の興亞奉公日は差し迫つた時局の重大性に鑑み、全國民の決意を一層強化するため「一億前進の誓ひ」を道標に掲げ、今次の事變發生以來國を擧げて努力せられた生活戦の跡を反省すると共に、更に前途の多難に對し、從來に倍して「一家と隣保」が互に手を携へて萬遺憾なき前進を力強く踏み出すことを要望する。

これが爲には全國の各家庭は勿論、部落會、町内會、隣組に於ては、今後「日常の生活を通じて奉公の誠を効し、一意難局の克服に邁進」することが絶対必要である。

この趣旨の下に「誓ひ」を樹て、決意を新たにすると共に、この新たなる決意に基いて今後實行しなければならぬ生活刷新の事項が各々の地域の實情に應じて定められなければならない。

例へば戦時食糧の増産と確保、生活物資の全面的消費節約、國民皆勞の徹底、金屬類の回収、廢品の活用、時間の嚴守、會合の整理と會合に對する弊風の打破、冠婚葬祭に於ける弊風の改善、生活能率の増進、貯蓄の勵行、經濟違反の排除、出征軍人の遺族家族に對する接護等、何れも既に提唱せられた事柄であつて、これ等の實績を檢討すると共に更に時局の現段階に應じて、この際一層合理的な實踐事項が地域的に申合せらるべきである。

殊にこの月には貯蓄強調の運動が行はれるのであるが、變轉極りない近時の内外情勢の下に於て、戦ひを勝ちぬくためにはその絶対の條件である戦費をつくる貯蓄の必要は一段と高まり、この運動の強化と實踐を期さねばならぬ秋になつた。全國民は擧げてこれが達成のため、更に一層の努力をいたさなければならぬ。

この「一億前進の誓ひ」が全國の津々浦々に心と心の固き誓ひとなり正しき反省に因る力強く前進が進み出される時、前途に如何なる事態が現出するも、日本は微動だもしないのである。

實 踐 事 項

- 一 「一億前進の誓ひ」の實行
- 一 貯蓄の強化

十二月一日は「防火デー」
形式的に流れるな

(警務課)

十二月一日は全國的に「防火デー」が實施せられる。縣では此の國家非常の秋に於て防火デー當日一般縣民に警火思想を昂揚するため、次の如く縣及び市町村の實施計畫を決定したが、本運動實施に當つて警防團及び一般縣民は齊しく「臨戦態勢下に於ける防火宣傳」なる點に深く思ひを致し、唯形式的なお祭り騒ぎに陥入ることのないやう格段の留意を拂ひ實効を收められたいものである。

▲縣の實施方法

一 新聞紙の利用

(イ) 防火デー計畫要綱を發表し一般に周知せしめる。

(ロ) 本縣に於ける火災の被害状況を發表し防火運動の必要なる所以を再認識せしめる。

(ハ) 防火に關する參考事項を發表し刻下に於ける防火思想の啓發昂揚に資せしめる。

(ニ) 實施状況をニュースとして發表し、一般をして之が活動狀

況を一瞥せしめ本運動の徹底状況を周知せしめる。

二 映畫の上映

米子市の各映畫常設館に對し當日順番に警火思想普及映畫を上映せしめる。

三 ポスターの利用

防火思想を昂揚せしめるポスター約二千枚作成し警察署をして掲出せしめる。

四 關係各官衙との連絡協調

學校、大政翼贊會支部、各團體に對し協調方連絡する。

五 各警察署巡視

當日警防係員をして縣下各警察署管内の樞要ヶ所に出張せしめ實施状況を視察督勵せしめると共に、狀況に應じては隨所に於て防火警火に對する講演をなさしめる。

▲市町村の實施方法

一 防火宣傳の標準

(イ) 日刊新聞社に依頼し同紙を利用宣傳すること。

(ロ) 警察署長並に警察署監督者は隨所に於て講演し防火思想の啓發昂揚に努めること。

(ハ) 映畫、演劇、寄席等の各種興行者と懇談しスライド、懸垂

幕、プログラム等に依り防火宣傳に協力せしめると共に興行内容其のものにも努めて防火其の他警防に關係ある題材を取入れるやう從應すること。

(ニ) 百貨店、軌道事業者、自動車運輸事業者等と懇談してポスター、懸垂幕等の掲出方に付き協力せしめると共に、時宜に依つては展覽會の開催等に付ても考慮せしめること。

(ホ) 十二月一日午後一時二十分より二十分間(家庭の時間)東京中央放送局に於て警備課長が防火に關する講話をなす外、當日は適宜防火宣傳に關する事項を挿入し全國一齊に中繼放送の豫定に付き、當日はラヂオを有する一般家庭は勿論ラヂオ商、公衆用ラヂオを利用し一般に洩れなく聴取せしめること

(ヘ) レコード販賣店、各種興業者、喫茶店其の他業態上レコードを使用するものをして努めて警防團歌、同行進曲「火の用心」等警防宣傳に關するレコードを演奏するやう從應すること。

(ト) 隣組常會同覽板を利用し各家庭の主婦の防火思想を喚起するやう措置すること。

(チ) 立看板ポスター等に依る宣傳は動々もすれば形式に流れ其の効果薄き事實に鑑み、生徒兒童の作品等の街頭展覽を企てる等有効適切なる方法を考案すること。

二 警防團の行事

(一) 十二月一日は興亞奉公日に相當するを以て興亞奉公日としての趣旨を加味するの外、早朝各警防團に於てそれ／＼非常召集を行つた上令旨の奉讀並に之が趣旨の徹底に努めると共に、國防及び防火祈願祭等を行ふこと。

(二) 點檢、禮式、操練を實施すること。

(三) 警防用器具機械の點檢手入れを行ふこと。

(四) 水利施設の點檢手入れを行ふこと。

(五) 各戸の火の元の檢査を行ふこと。

(六) 空襲時火災防禦等の實戰的訓練を行ふこと。

(七) 街頭行進(消防自動車は行はず)を行ふこと。

三 警察署の行事

(一) 警察官又は警防團集合の際令旨を奉讀するの外防火に關する訓練を行ふこと。

(二) 警防團の應援演習を行ふこと。

(三) 警察と各官公衛との防火等の連絡協調に關する幹部懇談會を開くこと。

(四) 工場其の他自衛消防の訓練を指導すること。

(五) ポスターを受持巡査又は警防團員をして適當のヶ所に掲出せしめること。

四 市町村、學校等の協力要請

(一) 市町村、大政翼贊會郡支部、在郷軍人會、青少年團其の他の團体に對し可及的協力を求めること。

(二) 各種學校當局の協力を求め概ね次の措置を取らしめること
イ 校長又は之に代るべき者に於て朝禮の際防火講話を行ふこと。

ロ 防火、緊急避難の演習を行ふこと。

ハ 防火宣傳を取入れたる生徒兒童の作品(書方、綴方、圖畫等)の展覽會、街頭揭示等を行ふこと。

尙ほ本運動に要する費用は極力節減に努め、之がために寄附金の募集等を行つてはならないこと勿論である。而して本要綱は單に標準を示したに過ぎないのであるから、それ／＼地方の實情に依つて有効適切なる方途を選び細密な計畫を樹立して實施せられたいのである。

國民更生金庫の取扱ふ

轉廢業者の範圍に就て
及引受資産評價

(商工課)

國民更生金庫は、進展する時局に伴ふ高度國防國家の建設、國內經濟統制の強化、乃至は貿易關係の變遷等によつて、その業務について禁止又は制限を受け、或は生産配給機構の整理等によつて、従来の業務から轉業したり廢業したりせねばならぬやうになつた中小商工業者のために、舊業務用の資産とか負債の整理を容易ならしめて、これらの中小商工業者が後顧の憂ひなく、安心して新しい職分奉公の方面に邁進し得るやう力添へしよとの目的を以て、本年三月公布されたところの國民更生金庫法によるものであつて、その取扱ふ業務は右の事情により轉業又は廢業をなさうとする商工業者の爲に、營業用資産の管理處分の引受・資金の融通・債務の肩代り、並にそれらの業務に附帶する事業である。ついでに今回、この國民更生金庫の取扱ふ轉廢業者の範圍、並にその引受資産の評価に當つて斟酌控除すべき共助の範圍について、その取扱ひ方を次のやうに決定されたから、各位は充分了知の上、該金庫の利用について萬全を期せられるやう希望する。

第一 國民更生金庫ノ取扱ノ 轉廢業者ノ範圍

- 一 國民更生金庫ニ於テ資産ノ引受ヲ爲スコトヲ得ベキ轉廢業者ノ範圍ハ左ノ通りトス
 - (1) 從來ノ營業ヲ全ク廢止シ、他ノ業務若ハ職業ニ從事シ又ハ失業ノ状態ニ在ル者
 - (2) 相當長期ニ亘リ休業ヲ餘儀ナクセラレ、而モ再開業ノ見込立チ難ク轉廢業ト同様ノ事情ニ在ル者
 - (3) 業務縮小ノ結果既往一箇年ノ純益額(國民更生金庫引受資産等ノ評價方法基準第一總則第三號第二項ノ算出方法ニ依ル以下同ジ)又ハ今後一箇年ノ純益見込額ガ、昭和十二年以降ニ於ケル各年純益額ノ中最高ノモノノ三分ノ一以下トナリ轉廢業ト同様ノ事情ニ在ル者
 - (4) 同業者ガ組合(小組合ヲ含ム以下同ジ)ノ共同施設ヲ中心トシテ其ノ企業ヲ整理統合シ、之ニ依リ物資ノ配給量ノ減少等ノ事態ニ對處シ或ハ生産、配給等ノ機構ノ整備ヲ圖ル場合ニ於テ左ノ何レカニ該當スル者
 - (イ) 従前ノ營業ヲ全ク廢止シテ組合ノ従業員トナル者
 - (ロ) 自己ノ設備ニ依リ自己ノ計算ニ於テ爲ス營業ヲ全ク停止シ(組合員タル場合ハ其ノ資格ハ一應其ノ儘存續スルモ營業ハ専ラ組合ノ共同施設ニ依ツテノミ行フモノトス)且

- 今後自己ノ設備ニ依リ自己ノ計算ニ於テ再ビ營業ヲ開始スルコトヲ全ク豫想セラレザル者
- (ハ) 手持設備ヲ持寄り共同作業ヲ爲ス者ニシテ自己ノ設備ニ依ル單獨作業ハ全ク之ヲ廢止シ、且ツ今後自己ノ設備ニ依リ再ビ單獨作業ヲ開始スルコトヲ全ク豫想セラレザル者
- (5) 同業者ガ會社ヲ組織シテ其ノ企業ヲ整理統合シ、之ニ依リ物資ノ配給量ノ減少等ノ事態ニ對處シ、或ハ生産配給等ノ機構ノ整備ヲ圖ル場合ニ於テ左ノ何レカニ該當スル者
 - (イ) 會社ノ設立ニ當リ從來ノ營業ヲ全ク廢止シテ會社ノ従業員トナル者
 - (ロ) 會社ノ設立ニ當リ出資者トシテ之ニ參加シ、自己ノ設備ニ依リ自己ノ計算ニ於テ爲ス營業ヲ廢止シ、且今後再ビ開業スルコトヲ全ク豫想セラレザル者。但シ設立後ノ會社ノ株式ノ過半ヲ所有スル等事實上個人企業ノ業主ニ等シキ地位ニ在ル者ヲ除ク
- 二 法人ニ付テハ前號ニ準ズルモノトス
- 三 兼業者ガ其ノ業務ノ一部門ヲ廢止スル場合ハ原則トシテ業務ヲ縮少シタルモノト看做シ、其ノ業者ノ業務全体ニ付第一號(1)ノ規定ヲ準用スルモノトス。但シ特定ノ業種ニ關シ一般のニ業者ノ整理統合ガ實施セラレタル結果兼業者ガ其ノ業務中當該業種ニ屬スル部門ヲ廢止スル場合ニ在リテハ、當該部門ヲ獨立シ

タル一營業ト看做シ、前各項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ルモノトス

- 四 前各號ノ場合ヲ通ジ、轉廢業者ノ範圍ハ原則トシテ昭和十五年十月二十二日「中小商工業者ニ對スル對策閣議決定」以後ニ於テ前各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者ニ限ルモノトス
- 五 組合又ハ會社ニシテ第一號(4)ノ(イ)、(ロ)若ハ(ハ)又ハ同號(5)ノ(イ)若ハ(ロ)ニ該當スル者ノ營業用資産ヲ一應組合又ハ會社ニ引取リタル後、之ガ管理處分ヲ國民更生金庫ニ委託セントスル者アルトキハ國民更生金庫ハ之ヲ引受クルコト得ルモノトス

第二 國民更生金庫ノ引受資産ノ評價ニ 當リ斟酌控除スベキ共助ノ範圍

- 一 轉廢業者ノ業務整理ニ當リテハ地方長官ノ指導斡旋ノ下ニ先ヅ同業者團體、合同企業、存續企業等ヲシテ相互共助ノ精神ニ則リ其ノ團體、企業等ノ資力、今後ニ於ケル負擔能力ヲ考慮シ適當ナル範圍内ニ於テ可及的轉廢業者ニ對スル援助施設ヲ行ハシムルモノトス
- 二 特ニ左ノ何レカニ該當スル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ同業者團體、合同企業、存續企業等ヲシテ轉廢業者ニ對シ所謂配給權、實績權又ハ營業權ノ代價トシテ相當ノ給付ヲ爲サシムルト共ニ國民更生金庫ノ資産引受價格ハ右共助ノ程度、當該轉廢業

者ノ資産負債及收入ノ狀況等ヲ考慮シ適宜斟酌減額シテ之ヲ決定スルモノトス

- (イ) 轉廢業者ノ所謂配給權、實績權等(原材料又ハ取扱商品ノ配給ヲ受クル地位又ハ權利ニシテ法令ニ基カザル事實上ノ地位又ハ權利ヲモ含ム)ヲ特定ノ同業者團體、合同企業、存續企業等ニ於テ承繼シタルトキ
- (ロ) 右ノ外同業者團體、合同企業、存續企業等ニ於テ轉廢業者ノ營業ノ全部又ハ一部ヲ承繼シ、之ガ爲其ノ純益ガ著シク増加スベキモノト認メラルトキ、又ハ是等團體若ハ企業ニ於テ轉廢業者ノ舊營業ノ廢止ノ影響ニ因リ其ノ純益ガ著シク増加スベキモノト認メラルトキ
- 三 前項ノ斟酌減額ハ國民更生金庫ノ資産引受價額ノ評價方針ニ於テ所謂配給權、實績權又ハ營業權等ノ存在ヲ考慮ニ加ヘ居レル關係上之ヲ爲スモノナルヲ以テ斟酌減額ノ程度ハ右ニ相應シタル範圍内ニ之ヲ止ムルモノトシ、尙共助ノ額ガ比較的少額ナルトキハ之ヲ爲サザルコトヲ得ルモノトス

兵器獻納資源回收 運動 曝出金報告

一金拾八圓八拾錢
一金參百拾圓六拾錢
日野郡山上村
米子市

一金參拾五圓拾錢	西伯郡餘子村
一金拾貳圓四拾壹錢	岩美郡米里村
一金七圓四拾貳錢	東伯郡灘手村
一金七圓七拾貳錢	東伯郡花見村
一金六圓拾九錢	日野郡石見村
一金拾五圓七拾五錢	岩美郡本庄村
一金八圓七拾錢	氣高郡鹿野町
一金四圓八拾貳錢	氣高郡豐實村
一金壹百四拾五圓七拾貳錢	東伯郡倉吉町
一金四拾五圓六拾貳錢	東伯郡泊村
一金貳拾貳圓五拾七錢	東伯郡山良村
一金拾六圓參拾五錢	東伯郡舍人村
一金貳拾六圓四拾壹錢	西伯郡中濱村
一金四拾四圓	西伯郡大高村
一金貳圓六拾四錢	西伯郡大和村
一金六圓參拾四錢	西伯郡東長田村
一金四圓	日野郡多里村
一金六拾圓八拾五錢	東伯郡社村
一金參圓四拾錢	氣高郡瑞穗村
一金七圓五錢	西伯郡大山村
一金拾貳圓貳拾五錢	東伯郡小鹿村
一金拾壹圓七拾五錢	東伯郡橋津村
一金壹百五拾七圓九拾錢	西伯郡境町
一金九圓八拾貳錢	日野郡根雨町
一金拾貳圓參拾七錢	入頭郡國中村
一金七拾壹圓五拾四錢	入頭郡若櫻町

◎行旅死亡人

- 一 氏名 生年月日、男女ノ別
不詳、推定年齢五十四、五歳ノ男
- 二 本籍 住所不詳
- 三 救護又ハ取扱年月日
昭和十六年七月二十八日奈良市雜司町領御料地内大佛池ニ於テ溺死
- 四 其ノ他必要ナル事項
身許不詳ニ付行旅死亡人トシテ市營墓地へ假埋葬ニ附ス
右心當ノ向ハ直接該市長宛照會相成度

◎行旅死亡人

- 一 氏名、族籍、生年月日、男女ノ別
推定年齢三十二、三歳ノ男
- 二 本人タルヲ認識シ得ベキ必要ナル事項
身長五尺二寸位、中肉丸顔肩毛濃キ方頭髮五分刈、大齒第二門齒ニ銀冠ヲナス着衣ハ薄茶色無地セル單衣ニ白黒水色格子縞ノ長襦袢ヲ着シ黒錦紗ノ兵子帶ヲナス一見職人風ナリ
- 三 所持品及遺留品
バナマ帽子、一錢銅貨一枚、ニツケル製ノ鎖、柳ノ男下駄
右ハ九月二十七日午後十一時二十分頃初瀬町鬼ヶ芝關急電車線路上ニ飛込自殺ニ付初瀬町墓地ニ假埋葬ニ附セリ
右心當ノ向ハ直接該町長宛照會相成度

昭和十六年十一月廿八日印刷
昭和十六年十一月廿八日發行

鳥取縣鳥取市東町
發行所 鳥取縣警務所
鳥取縣警務所
鳥取縣警務所
鳥取縣警務所
鳥取縣警務所